淀姫通信

平成二十六年三月二十一日

皇紀２６７４年
（西暦２０１４年）
第75号

発行：淀姫神社社務所
〒859-4501
松浦市志佐町浦免632
TEL・FAX 0956-72-0653

一号飛んじゃいましたが再開です

もう春ですねえ

これを書いているのは三月の二十一日です。諸般の事情により、一号すっ飛ばしてしまいましたが、今号より再開いたします。

さて、この号が皆さんのお手元に届く頃には桜も満開の季節になっているのではないかと思います。いよいよ春爛漫といった風情に満ちあふれているのかなと思いながら、これを書いております。さて、どうでしょう。

今年の冬はとても寒く、かと思えば暖かい日もあったり、なかなかに気温の変動が激しく、心身にとっては負担が大きい冬でしたね。

皆さまにおかれましては、これからも健やかにお過ごしいただけるよう、心よりお祈り申し上げます。

祈年祭（春祭り）無事終了

去る三月十三日に、淀姫神社三大祭のひとつ、祈年祭（春祭り）が無事齋行されました。

今回ご助勢いただいた神職さんは

◆調川町天満神社宮司　中山政治さん
◆御厨町姫神社宮司　森川典幸さん
◆今福町今福神社禰宜　早田伸次さん

のお三方でした。本当にありがとうございました。

（※今回はカメラマンが不調だったため、写真がありませんので、祭典の式次第などは割愛させていただきます。）

宮司による玉串拝礼ののち、左記の方々による玉串拝礼が行われました。

◆淀姫神社氏子総代会会長
◆淀姫神社氏子総代会顧問
◆木場氏子代表　お二方
◆白浜免特別供米者　ご代表
◆八十八歳・米寿　ご代表
◆七十七歳・喜寿　ご代表

今回賀寿を迎えられた方は

◆八十八歳・米寿の方　１５名
◆七十七歳・喜寿の方　１６名
◆結婚五十年　金婚の方　１組

以上の方々に賀状の贈呈が行われました。

当日は未明より雨が降り、足下が悪い中、たくさんの方のご参集・ご参拝を頂きましたこと、心より感謝申し上げます。

季節の言葉あれこれ

今回も少しだけ季節の言葉を取り上げてみたいと思います。

◆花見

この号が出る頃には、もう散り際かと思いますが、花見の由来について少々。

花見の風習は古くは奈良時代までさかのぼります。

もともとは貴族たちが宮中で花見の宴を催していたことが始まりで、特に桜の花はその散り際の見事さから「もののあはれ」を象徴する花として愛でられました。

農村部では春の農作業に先立って田の神を迎え、野遊びをする風習がありました。

今のような花見の風習は、江戸時代に貴族の花見と野遊びの風習が結びついて一般庶民に広がり、楽しまれるようになったといわれています。